PDF版
(2014-12-29)

DOBLE

クライミングテクノロジー

ドーブレ

3 年保証
MADE IN ITALY
高所からの墜落防止のための個人用保護具
EN 15151-2:2012 type 2

ビレイディバイス「ドーブレ」取扱説明書
製造元：イタリア・アルデザイン社
（商標名：クライミング・テクノロジー）
輸入販売元：イワタニ・プリムス株式会社
東京都中央区八丁堀 4-12-20
電話番号 03-3555-5605
イタリア製

はじめにお読みください

登山、クライミングは一般的に他のスポーツに比べ、リスクの高いスポーツです。クライミング用品を使用しても登山、クライミングには潜在的な危険が伴います。ご自分自身の安全のため、クライミングを行うかどうかの判断はご自分で下してください。本製品を使用する前には必ず本取扱説明書をよく読み、本製品の特徴や注意事項をよく理解して使用してください。実際の使用の前には本製品の使用方法に十分に慣れることが必要です。また、クライミングに際しては安全確保に対する幅広い知識が必要であることを認識し、考えられうる事故に備えなければいけないことを考慮してください。
この取扱説明書はご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みいただいた後はいつでもご覧になれる所に保管してください。最新の情報や、その他の補足情報、及びその他の言語での取扱説明は、www.climbingtechnology.com にて確認してください。

⚠ **警告** 本説明書の正しい取扱方法に従わない場合、死亡または重大な傷害を負う恐れがあります。

表示内容

⚠ **危険**：人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容です。
⚠ **警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ **注意**：人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容です。
⊘ **禁止**：やってはいけないことを表しています。

ご使用に際しての注意事項＜必ずお読みください＞

この注意書は、本製品を登山、クライミングで正しく使用するための注意事項が書かれています。用途以外での使用は絶対に避けてください。誤った使用方法、不適切な使用方法やメンテナンスは、死亡または重傷を負う恐れがあります。この製品を使用する人は、使用方法を習熟しておく必要があります。使用者は使用方法（製品の使用方法および安全確保に関しての正しい措置）についての充分な習得が必要です。本取扱説明書に記載のある正しい方法でのみ使用してください。他の方法による誤った使用方法は禁止いたします。使用者は登山、クライミング等での実際の使用における生命および身体に対するリスクをあらかじめ認識してください。正しい使用方法を習得しない、またはリスクを認識しない人、登山、クライミング全般に対する知識を有しない人や安全確保を行えない人は、本製品を使用してはいけません。製造元、販売店、輸入代理店は、誤った使用方法や不適切な使用方法に起因するすべての事故に対し一切の責任を負いません。
本取扱説明書は、登山、クライミング用品の正しい使用方法などについて説明を行うものです。それらに関する専門的用語が用いられています。語句の内容が理解できない場合は本製品を使用せず、まず登山やクライミング講習等を受講してください。また登山、クライミングには安全を確保するための正しいロープワークが必要です。これらが行えない場合は危険ですので行わないでください。

⚠ **警告** 登山、クライミングの前または最中には、アルコール、向精神薬、その他、知覚・認知、バランス感覚、集中力に悪影響を与える食品や薬品等の摂取を行わないでください。

EN 15151-2:2012 type 2 製品についての説明
EN 番号 はヨーロッパ連合で規定する製品の規格で、EN 15151 はロープとあわせて使用されるブレーキシステムを意味します。

適合性について：この器具とあわせて使用するクライミング用品について、正しく機能させられるかどうか検証を行ってください。ロープ：CE（EN892）もしくは CE 及び UIAA の認証を受けたダイナミックロープ：シングル（太さ 8.9 ～ 10.5㎜）、ダブル、ツイン（7.7 ～ 9.0㎜）のクライミング用のロープを使用してください。クライミングにおいては日本で岩登り用ロープとして認定を受けたものをお使いください。ロープはその太さや種類によりすべりがあり、ビレイに影響を与えます。また真新しいもの、表面加工の種類や程度、防水加工、濡れたり凍ったりした場合によりすべる程度は変わります。2 本のロープを使用する場合は、直径、使用の程度、硬さ等が同じものを使用してください。

ロープによっては滑りやすさが異なりますます（新しいロープ、径の細いロープ、特殊な外皮構造のロープ、外皮に特殊な処理がほどこされているロープ、濡れているロープ等）。使用するロープの取扱説明書もよく読み、理解してください。ブレーキとして使用するビレイカラビナ：HMS（洋ナシ形）ロッキングカラビナを使用してください。ロッキングカラビナはロープと一緒にセットした時にスムーズに動く状態にしてください。

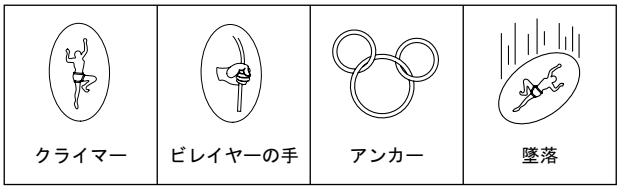
個人装備です：クライミング用品は自分自身で管理し使用してください。他の人が使うような場合には必ず器具の点検を入念に行ってください。このようなためにも点検記録簿を作っておくと便利です。

⚠警告 どのような使用履歴があるかわからないクライミング器具や取扱説明書のない器具は使用してはいけません。

使用前点検
実際に使用する前に、すべてのクライミング用器具が最善の状態であることを確認してください。磨耗がひどかったり、ひび割れが見られたり、亀裂が入っていたり、ささくれているような場合は使用を中止してください。

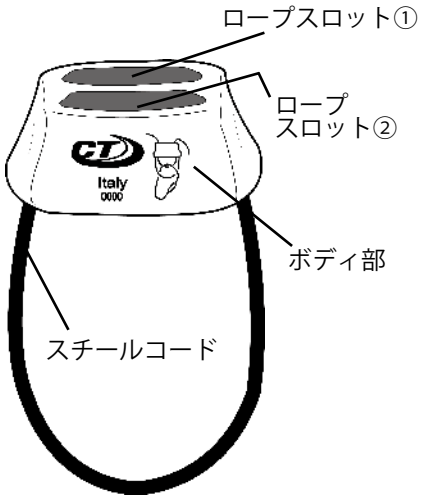
本体表示
本体には以下の表示があります（**図 1** ボディ部参照）。製造者またはそのロゴ、カラビナとロープの接続方法の図、製造バッチ番号。
製品に記載されている表示が読み取れることを確認してください。また内容を理解した上でお使いください。

本取扱説明書の表示記号



1. 各部の名称（図 1）
1. ボディ部（アルミニウム合金） 2. ロープスロット① 3. ロープスロット② 4. スチールコード

図 1



2. 使用方法・手順
本製品でのビレイに際し、使用者は、ロープの直径や状態がブレーキ性能に大きな影響を与えることを理解してください。ボディにはプラスチック皮膜が施されたスチールコードが装備されています。このスチールコードは、ビレイ時にビレイカラビナに接続することで本製品が不用意に使用者から離れないように保持するものです。このスチールコードは持ち運びの間はカラビナでハーネスに掛けておくことができます。

本製品は、リードクライマーのビレイ、懸垂下降（ラペリング）においてシングルまたはダブル、ツインロープで使用することができます。ロープを二本使用するときは、ロープスロット①、ロープスロット②に一本ずつロープを挿入してください。実際のビレイには別売の HMS（洋ナシ型）ロッキングカラビナが必要となります。

セコンドクライマーを上方からビレイする際は、上部にいるビレイ

ヤーよりさらに上にあるビレイステーションを利用します。このビレイステーションに接続されたカラビナ等を通してロープを一旦ビレイヤーの上方向に向かせ、アンカーを通してセカンドクライマーをビレイします。

本製品はリードクライマーとセコンドクライマーの二人で使用する器具です。実際のクライミングに際しては、クライマーとビレイヤーが装備とその使用方法について毎回相互確認を行ってください。実際のビレイの前に、ロープがきちんと止まるか安全な場所で確認を行ってください。

> ⚠ **警告** スチールコードはクライマーの体重を支える強度は持っていません。スチールコードに荷重が掛からないようにしてご使用ください。

> ⚠ **注意** 説明書は見やすさを優先しており、素手で表記してあります。実際の使用に際してはビレイヤーはクライミングのビレイ用手袋等を使用し、手を保護してください。

2.1　リードクライマーのビレイ（図 2）：図 2 のようにセットしてください。本体のスチールコードをカラビナに掛け、さらにビレイヤーのハーネスのビレイループに掛けます。ロープスロットから挿入したロープをカラビナに掛けます。使用する HMS カラビナの幅広の方がロープに掛かるようにしてください。セットしたらカラビナのロックがしっかりと掛かっていることを確認してください。ロープ末端側は、**図 3** のようにビレイヤーのハーネスに接続し、リードクライマーがロープの長さ以上に登高してしまうことを防いでください。

2.2　ロープを繰り出す（図 3）：ビレイヤーは片方の手で器具から出た末端側のロープを持ち、もう片方の手でクライマー側のロープを握ります。リードクライマーの動きに合わせ、末端側のロープを緩め、クライマー側のロープを握っている手で繰り出していきます。クライマーが支点へロープをクリップした直後などに余分に出たロープはすぐに手繰り、クライマーが登高していないタイミングでは末端側のロープを下側に引くようにして保持してください。
ロープは常に両手で保持するようにし、クライマーの墜落に備えてください。

> ⚠ 警告 ビレイヤーはビレイ中、末端側のロープをしっかりと保持し下側に引くようにし、クライマーのフォール（墜落）に備えてください。ロープから手を離すとクライマーが墜落時にそのまま落下し、死亡、または重大な傷害を負う恐れがあります。

ロープをブレーキングする性能は、ビレイヤーが下に引く末端側のロープと本製品のボディ部の接触する部分の屈曲により異ってきます。

図 2

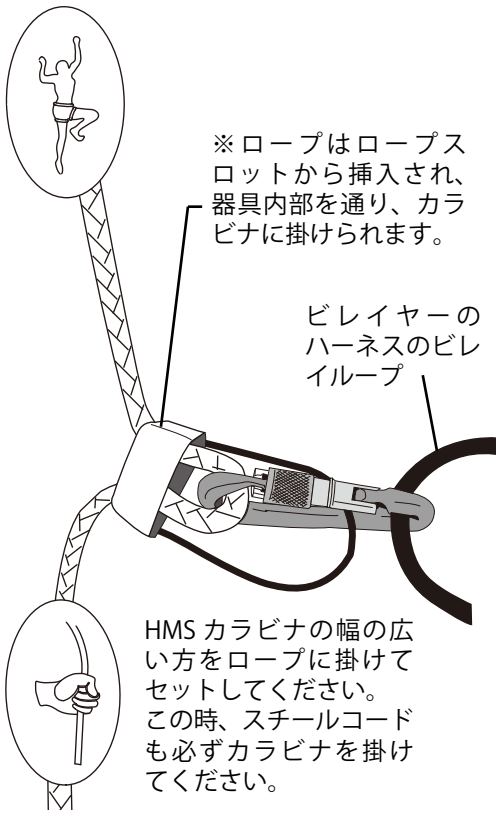


図 3

ビレイヤーが引く末端側のロープが図 4 の様にボディ部から大きく屈曲して下に引かれる場合、摩擦抵抗が大きくなりブレーキ性能は高くなります。
逆に図 5 の様に屈曲が小さい場合は摩擦抵抗が低く、ブレーキ性能が下がります。
ロープの屈曲以外にも、真新しいロープ、ロープの径、防水加工、濡れたり凍ったりした場合によってもブレーキ性能は異なります。

図 4

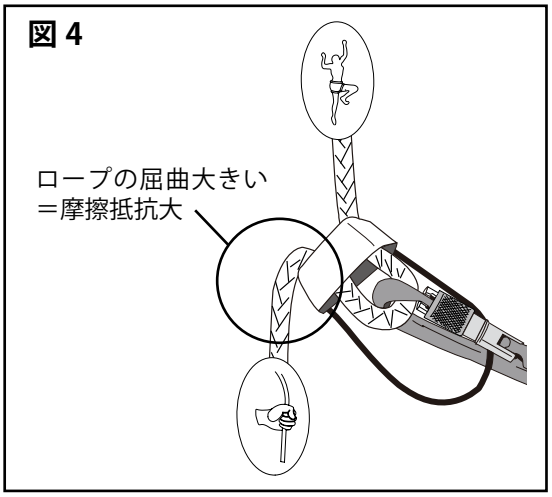
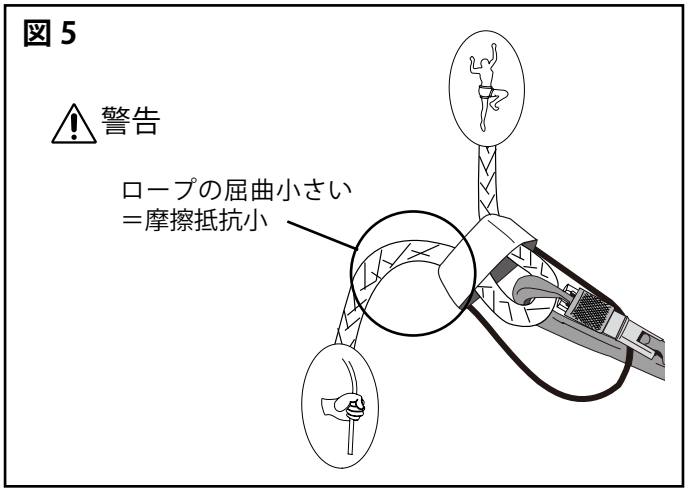


図 5

⚠警告



リードクライマーのフォール（墜落）の際は末端側のロープをしっかりと保持し下側に引けばロープとボディ部、カラビナとの摩擦で抵抗ができ確保することができます（テンションを掛ける）。下方向に引いた末端側ロープが本製品によりしっかりと屈曲するようにすることが重要です（図 6）。

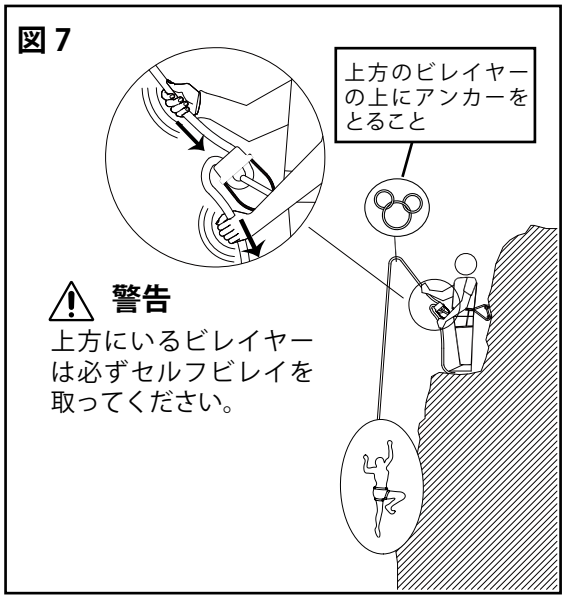
図 6

墜落を止めたらすぐに末端側のロープを両手でしっかりと持ち、クライマーの落下を防いでください。

> ⚠ **危険** クライマーにテンションを掛けているときは、末端側のロープをしっかりと保持し、下方向に引くようにします。ロープは絶対に放さないでください。手を離すと直ちにクライマーが落下し、死亡、または重大な傷害をする恐れがあります。

2.3　セコンドクライマーを上方からビレイする（図 7）：上方からセコンドクライマーをビレイするときは、ビレイヤーは必ずセルフビレイを取ってください。セコンドクライマーへのロープは、上方にいるビレイヤーのさらに上にとったアンカーシステムに接続したカラビナ等を通してください。セコンドクライマーの登高のペースにあわせ、ビレイヤーはロープを手繰り、ロープは常にピンと張った状態にします。

図 7



> ⚠ **警告** ビレイヤーはビレイ中、末端側のロープをしっかりと保持し下側に引くようにし、クライマーのフォール（墜落）に備えてください。ロープから手を離すとクライマーが墜落時に落下し、死亡、または重大な傷害を負う恐れがあります。

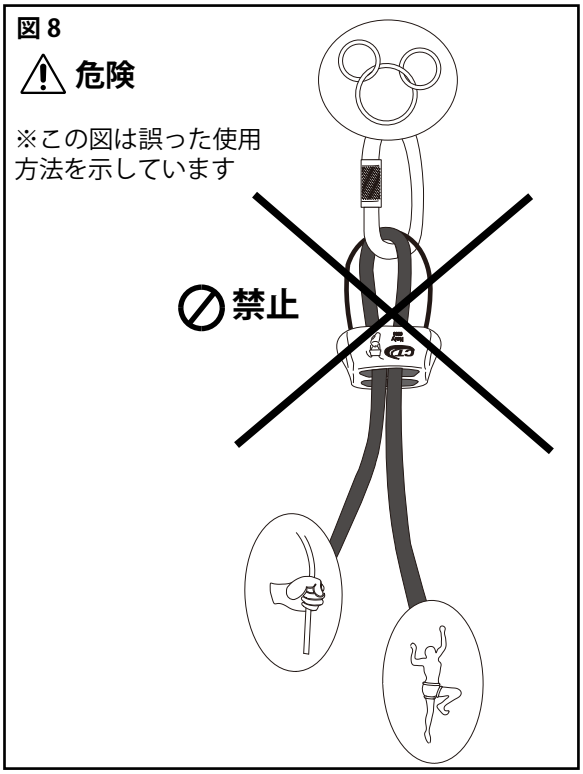
セコンドクライマーを上方からビレイするときは必ず図 7 の様に上方のビレイヤーのさらに上のビレイステーションにアンカーを取り、下から登ってくるクライマーにロープが接続されるようにしてください。
図 8 は誤った使用方法を示しています。このような使い方は大変危険です。クライマー墜落の荷重には耐えられません。

> ⚠ **危険** 図 8 の様に本製品を直接アンカーに接続してセコンドクライマーを上方からビレイすることは危険なため、絶対に行わないでください。

図 8

⚠ **危険**

※この図は誤った使用方法を示しています



2.4　トップロープ状態でのロワーダウン（図 9-1）：クライマーが登高を中止し、ロープにテンションを掛けながら下ろす場合、ビレイヤーは、両方の手を用いてクライマーの墜落を防ぎながら少しずつロープを繰り出し、ゆっくりとクライマーを下ろしてください。

> ⚠ **危険** ビレイヤーはロワーダウン中、末端側のロープをしっかりと保持し下側に引くようにし、クライマーのフォール（墜落）を防いでください。ロープから手を離すとクライマーが直ちに落下し、死亡、または重大な傷害負う恐れがあります。

図 9-1

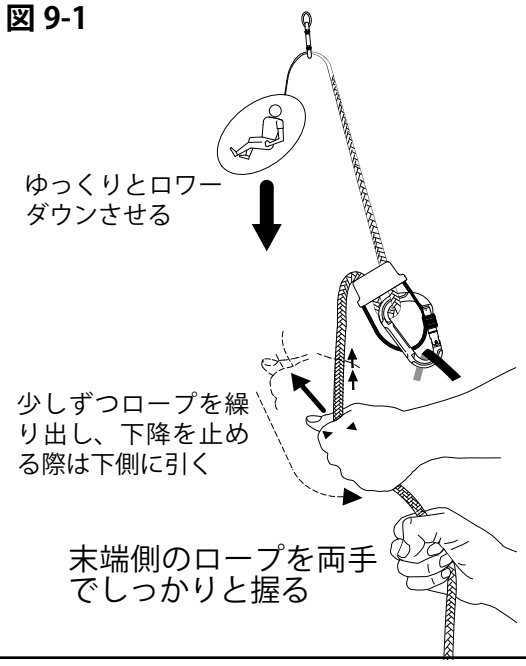
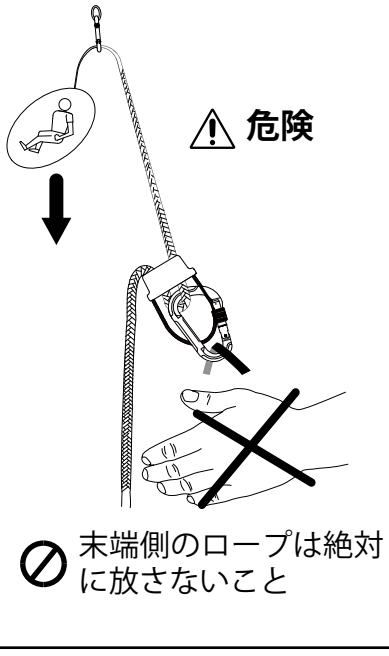


図 9-2



2.5　懸垂下降（ラペリング）：懸垂下降を行う際は、安全のため、プルージックコードを用いたフリクションヒッチによるセルフバックアップを取る必要があります。プルージックコードは別途お求めの上、用意してください。また、別途スリングが必要となります。

懸垂下降を行う：懸垂下降をする前はセルフビレイを取り、安全を確保します。プルージックコードでフリクションヒッチで下降用のロープにバックアップを取ります。**図 7** のようにビレイ器具の下を最低 20cm 空け、フリクションヒッチが来るようにセットします。ビレイ器具（本製品）はハーネスのビレイループに接続したスリングを使い、バックアップのためのフリクションヒッチの上に来るようにセットします。懸垂下降をするときは、まずフリクションヒッチが効いていることを確認し、つづいて本製品でロープにブレーキが掛かるか確認します。確認ができたらセルフビレイを外し、末端側のロープをしっかりと握って下方向に引くようにし、ブレーキをかけます。フリクションヒッチがビレイディバイス（本製品）に干渉しないよう操作してください（**図 10**）。
図 11 は危険な使用方法を示しており、このような使い方をするとフリクションヒッチ部がビレイディバイス内に巻き込まれ、ロープが動かなくなってしまいます。

懸垂下降中は、片方の手で末端側のロープをしっかりと下方向に引くようにして持ち、同時にフリクションヒッチを操作してロープをロック－ロック解除をします。末端側のロープを下に引く力を少し弱めることでロープがリリースします。ロープを緩めすぎると勢いよく下降してしまうので、ゆっくりと慎重に緩めてください。もう片方の手はビレイステーション側（アンカー側）の上方のロープを保持します。

図 10

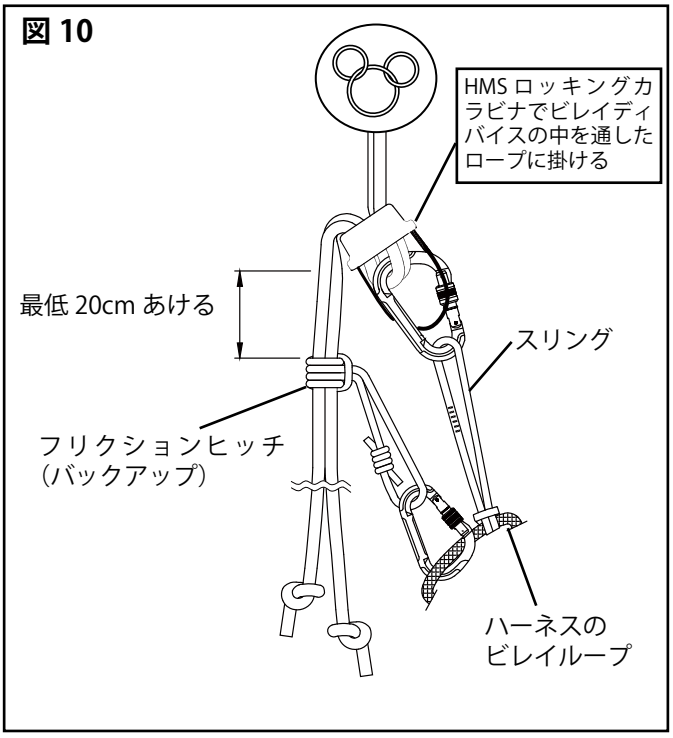
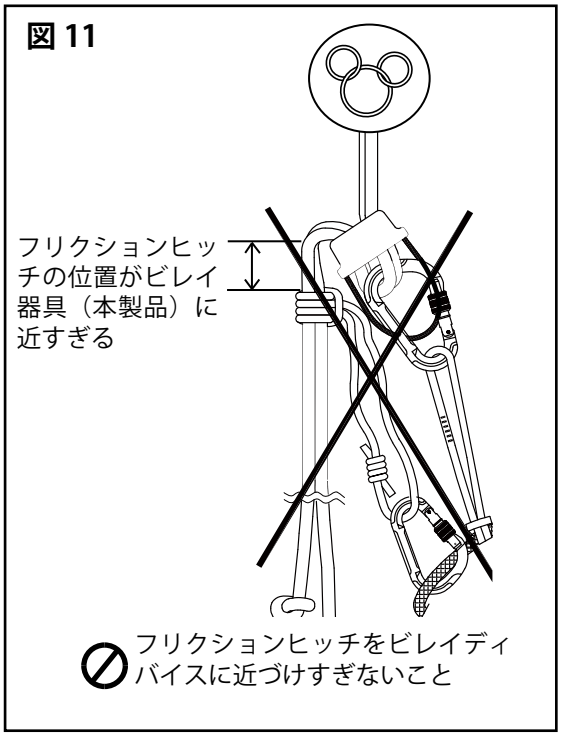


図 11



⚠警告
- 実際の懸垂下降の前にビレイデバイスが正しく作用するか、またブレーキの効き具合を確かめてください。
- 懸垂下降は、シングルロープ一本か、ダブルまたはツインロープ二本で行ってください。ダブルまたはツインロープ一本での懸垂下降は禁止します。
- 懸垂下降はゆっくりと行ってください。速すぎる下降は、クライマーの岩への激突を引き起こすだけでなく、ロープを融解させたり、本体ボディ部を磨耗させたりする原因となります。

⚠危険　ラペリングを行う際は、いわゆる「すっぽ抜け」と呼ばれる墜落事故を防ぐため、ロープ末端にはビレイ器具を通過せずそこで止まるように結び目を作ってください。結び目がないと、万が一懸垂下降時にロープが下降点まで届いていない場合に墜落の危険があります。

3. メンテナンス
本製品に腐食やその他のダメージが見られる場合、想定より大きな荷重がかかった場合は廃棄し、新しいものに買い換えてください。汚れは使用のつどに落とし、必要に応じてきれいな真水で洗い流し、水をやわらかい布で拭き取り、よく乾燥させてください。乾燥の際に、ドライヤーやストーブ等を使用しないでください。海岸付近で使用した際には塩分を良く落とすことが必要です。

4. 保管と持ち運び
保管の際はパッケージ等を取り外し、室内の乾燥した場所で保管してください。鋭利な物や紫外線、化学薬品、腐食性の物質との接触を避け、熱源となるようなものからも遠ざけて保管してください。また塩分を含んだ水にさらされたり、完全に乾燥させる前に保管したりすることは必ず避けてください。

5. 製品寿命
様々な要素 (使用頻度、使用状況・環境、保管状況・環境など) が作用するため製品寿命を特定することは極めて困難です。おおよその期間を算出した場合は以下の通りになります。
- 使用頻度が低い場合：10 年 (最大値)
- 使用頻度が極めて高い場合：1 年
以下のいずれかに該当する場合は、以後使用しないでください。
- 製品の点検が十分に行われていない、または点検の結果から使用不可と判断した場合
- 非常に大きな荷重・衝撃を受け、製品の状態に疑いがある場合
- 製品が製造されてからの、完全な使用履歴が分からない場合
- 該当する規格や法律が変更し、使用には適さないと判断された場合

6. 保証について
本製品の製造またはその素材に起因する不良については三年間の保証が有効です。お買い上げいただいた際のレシートは製品の保証書の代わりになるものですので、必ず本取扱説明書と一緒に大切に保管してください。
次の場合、保証は有効ではありません：**1.** お買い上げ後の不適切な輸送、移動時の取り扱いが不適当なために生じた故障・損傷 **2.** 通常使用で発生する傷、磨耗、コーティングのはげなどの外観上の変化 **3.** 不適切な保管方法や誤った使用方法や不注意によって起因した故障・損傷 **4.** 改造、不当な修理による故障・損傷 **5.** 火災・地震、水害、その他天災事故による故障・損傷 **6.** または前述の事項に準じたその他の要因によるもの
保証期間後の修理・点検等についても本書をご提示ください。

本取扱説明書には著作権があります。ご自分の予備としてのほかはイワタニ・プリムス株式会社の許可なしに複製、公開することはできません。

climbing technology

ビレイディバイス・ドーブレ取扱説明書
発行日　2014 年 12 月 10 日
発行者　イワタニ・プリムス株式会社
東京都中央区八丁堀 4-12-20
電話番号 03-3555-5605
DB1